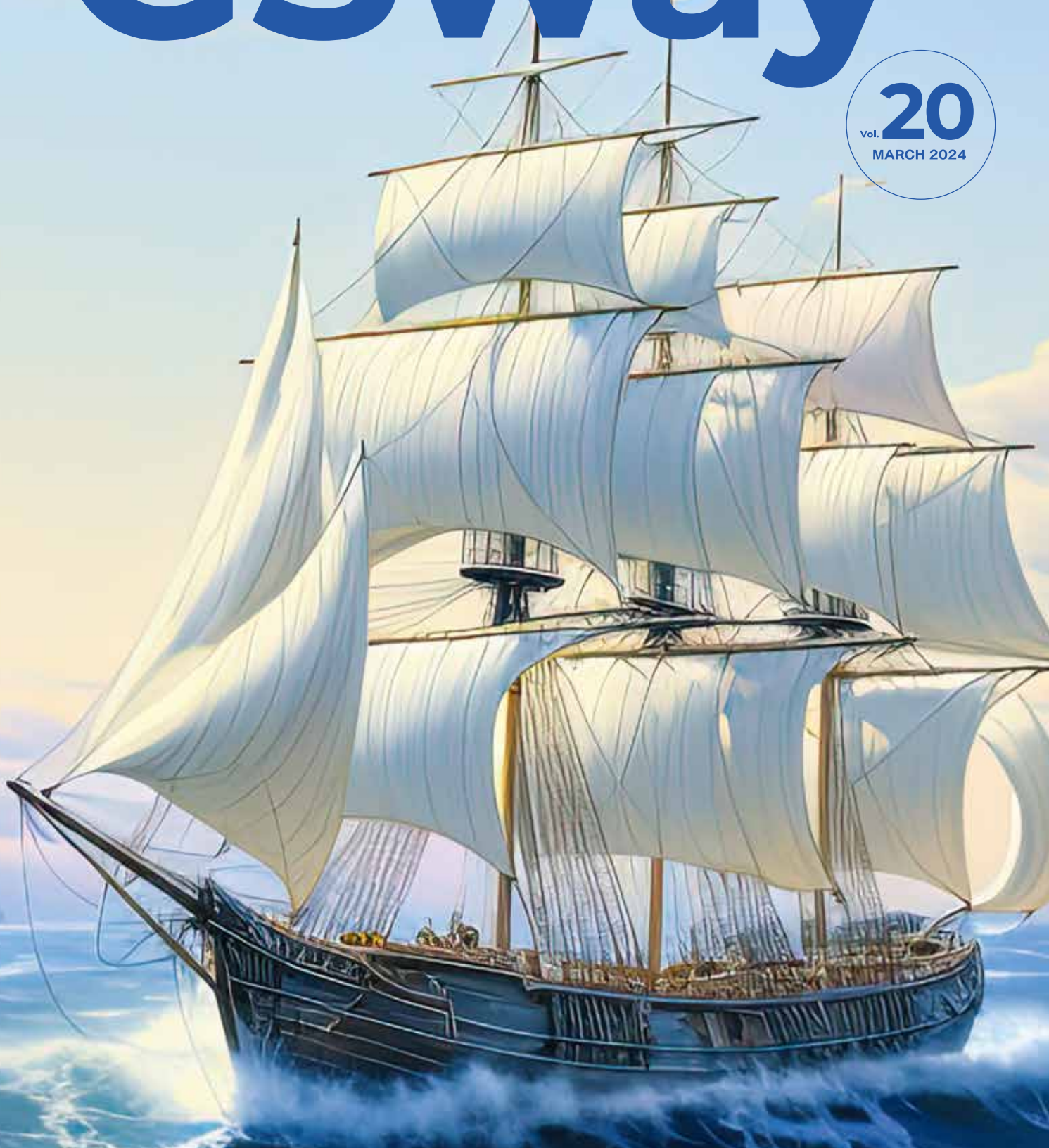


GSway

ともに歩み、ともに進む

Vol. **20**

MARCH 2024



特集

グローブシップ工事部の仕事

適切な修繕工事で資産価値を向上



グローブシップ工事部の仕事

適切な修繕工事で 資産価値を向上



皆さんは、グローブシップに「工事部」という工事を専門に行う部署があるのをご存知でしょうか？当初は、ビル管理業務の延長として簡単な電気設備や空調機器の補修・改修工事を請け負っていましたが、お客様からのご要望に応える形で数十年にわたって体制を強化してきた結果、現在では数十万円から数億円規模まで、様々な改修工事を手掛けるまでになりました。本特集では、グローブシップの工事部の特徴と、提供するサービスについて具体的にお伝えします。

現場を知り尽くした 管理会社だからできる改修工事

グローブシップが工事部という工事部門を持っていると聞いて驚かれるお客様も少なくありません。清掃、設備、警備など施設メンテナンスの会社というイメージが強い故ですが、実はここ10年ほどで当社に工事をご依頼いただくお客様が急増しています。

かつては、ビルの補修・改修工事を行う場合は、ビルの施工を請け負ったゼネコンなどの元請会社に依頼するというのが一般的でした。建物や設備の状況を最もよく理解しているのは施工業者であるという理由からです。しかし最近では、人手不足の影響もありゼネコンをはじめとする建設業

者が多忙を極め、改修のための検査や見積り作成、あるいは施工完了までに長い期間を要するという状況が続いています。こうした事態を背景に、業界内における役割の変化が進み、グローブシップ工事部の存在意義が大きくクローズアップされるようになってきました。

工事部 現場のノウハウを活かし、 現実的な改修計画を短期間で立案

数年ほど前から、お客様からの工事案件のご相談が一気に増え、多様な施設に関する様々なご要望をいただくようになりました。当社ではそうしたニーズに確実に応えていくため、資格を持った工事部のスタッフを増員するとともに、協力会社のネットワークを拡大するなど、体制の強化を図ってきました。お客様の施設メンテナンスを常駐する形で担っている当社のスタッフと連携し、現場の状況を踏まえた適確かつ現実的なアドバイスをを行います。

グローブシップ 取締役 東条正明(所管役員)



ビルや工場における補修・改修では、まず建物や設備の老朽化に伴う不具合箇所の修繕および機器更新などがメインとなります。外壁や屋上防水の補修、空調・衛生・電気設備の修繕や更新工事等です。近年では照明機器のLED化工事のご依頼を大変多くいただいています。建物や設備の老朽化対策は、経年に応じて順次対応していく必要がありますが、コスト面から見ると、劣化の度合いに応じて柔軟に判断を下していくことも求められます。

工事部の資格保有者

一級建築士	8名(二級保有者3名)
建築施工管理技士	14名(二級保有者3名)
管工事施工管理技士	11名(二級保有者5名)
電気施工管理技士	6名(二級保有者2名)
土木施工管理技士	3名
その他「電気工事士」「消防設備士」等、保有者有	



お客様の施設に常駐するグローブシップのスタッフは、不具合を含めた設備の状況を熟知しています。そのため、年数は経っていてもまだ補修の必要がない箇所や、逆に耐用年数に達していても早急に対応すべき箇所などについても的確に把握しています。だからこそ、現場のニーズに沿った現実的な改修プランをご提案することが可能になります。さらに、20~30年先を見据えた計画を随時見直ししながら改修を進めていきますので、ファシリティの資産価値向上にも大きく貢献します。

グローブシップ 工事部長 元澤弘幸

工事部 ファシリティのアップグレードで 働き方改革を推進

また、2019年に働き方改革関連法が施行されたことにより、多くの企業では社員の労働環境の改善を積極的に進めています。こうしたオフィスの全面的なリニューアルや移転に伴う工事においても、現場担当者の知識とノウハウが活かされるグローブシップ工事部のメリットが最大限に発揮されます。

コロナ禍の拡大により社員の働き方に大きな変化が生まれ、多くの企業から“もっと小さなオフィスに移転したい”“働く環境の快適性と機能性を高めたい”といったご要望が数多く寄せられました。当社では、3D CADで制作した立体的なイメージ図をもとに打ち合わせを重ねるとともに、企画段階から施工完了まで、工事部の専任スタッフが一通貫で責任を持って当たりますので、スピード感はもちろん、コスト面でも大きなメリットを享受いただけます。

グローブシップ 工事部長代理 高原洋昌



建物診断をもとに 無駄のない改修計画を提案

ビルや工場における補修・改修の実施にあたり、グローブシップ工事部がまず行うのが「建物診断計画表」の作成です。お客様にヒアリングを行うとともに、施設の状態をひとつひとつ検査し、設備機器の耐用年数を確認した後、建物全体の診断結果をまとめた報告書を作成します。そしてその診断結果をもとに、2~3年以内の修繕案、さらには20~30年先までを見据えた中長期の改修計画をご提案します。

自社で独自の修繕計画を立案されているお客様には、建物や設備機器の一般的な耐用年数と実際の状況を照らし合わせながら、計画に修正を加える必要がないかも検討し、現時点で求められる対応策について絞り込みを行っていきます。

建物診断計画表の一例



ご提案に際しては、お客様のコスト負担が最小限になるよう、早めに手を打つべきものやまだ大丈夫なものを明確に診断することに重点を置いています。一般的な耐用年数に近い機器でも交換はあと数年先に延ばせるものがある反面、使用頻度や環境により思いのほか劣化が進み、すぐにも対応が求められる箇所も出てきます。そうした状況を細かく検査していくのが私たち仕事です。そして、なるべくコストを分散することで、お客様のご予算の負担を軽減していけるような中長期計画を作成していきます。

グローブシップ 工事部 工事企画課 課長 重松秀策

は大きなリスクとなります。そのため、万が一の場合に備えてバックアップ機器の設置とメンテナンスにも万全の体制を敷いています。

しかし、全国の施設の空調機器を交換するためには莫大な費用がかかるため、グローブシップの工事部が各拠点の機器の状況診断を行い、およそ5年間に分散して全施設の空調設備の更新が終わるような計画をご提案しました。更新工事は3年前から順次進められ、プロジェクトは現在も続いています。

働き方改革を実現する オフィスレイアウト

グローブシップ工事部には、新規オフィスのデザインや、働き方改革に基づき社員のモチベーションを高めることを目指して現状のレイアウトを変更するといった、オフィスの改修に関するご相談がここ数年大変多く寄せられるようになりました。

オフィスの改修工事において私たちが最も重視しているのが“お客様のご要望をイメージ通りに実現する”ことです。しかし、お客様がお持ちのアイデアは漠然としたイメージであることも少なくないため、言葉だけで同じゴールを共有するという作業には大きな困難が伴います。私たち工事部の仕事は、こうしたお客様の漠然としたイメージを具体的な形にしていこうと、言っても過言ではありません。

そこで、3D CADを活用し、ご要望いただいている要件を絵として落とし込んでいくことでイメージを具体的に共有。互いにアイデアを出し合いながら、お客様が考えていらっしゃるゴールとの間の

差を埋める作業を進めていきます。当社でのオフィスの改修工事の一例としては、某生命保険会社の全国の営業拠点の環境整備プロジェクトが挙げられます。女性社員の比率が高い同社では、気持ちよく働ける快適なオフィス環境づくりを目指し、改修工事を全国約700箇所にも及ぶオフィスで順次進めています。内装やトイレなどに最新のデザインを採用し、従業員のモチベーション向上を図ることが最大の目的でしたが、同社の施設メンテナンス

業務を受託しているグローブシップは、現場から得た様々なアイデアをベースにご提案を行い、お客様との信頼関係をさらに深めることができたと思っております。

当社ではオーナー様からの直接のご依頼でもPM会社様からのご依頼でもレイアウト変更のご提案をお受けしています。当社のノウハウの蓄積で培った知識をフルに活用してご提案させていただきますので、オフィスの新設、改修をご検討の際はぜひご相談ください。

私たち工事部が最も大切にしているのは、お客様の立場に立つて物事を考えるということに他なりません。ご担当者様との話し合いを重ね、一緒に考えていくプロセスを抜きにしては、お客様がご要望されている最良のオフィスづくりを実現することはできません。私たちは、お客様のご要望に当社のノウハウを加味して、快適に働くことのできる環境デザインを重視したご提案を行っています。お陰さまで3D CADで作ったCGイメージは大変好評を得ており、完成したオフィスで働く社員の皆様にも大いにご満足いただいております。

グローブシップ 工事部
工事エンジニアリング課 課長 野田辰徳



3D CADのイメージ

最適な時期の適切な改修で、資産価値は向上する

既存の建物の修繕に関するご相談は、外壁補修や防水工事から、天井、床、壁の改修、空調や照明機器の新設や交換、トイレのリニューアル、各種配管の改修、さらには火災報知器など防災設備の設置まで、建物に付帯するすべての設備に及びます。

建造物が年ごとに劣化していくのは当然のことですが、何も対応を行わずに劣化した箇所を放置しておく、ある時点から急速に老朽化が進み、簡単な修繕だけでは済まない事態に至ることもあります。そうすると莫大なコストがかかるだけでなく、建物の資産価値も大きく下落します。

建物の維持管理においては、将来

にわたってかかるLCC(ライフサイクルコスト)を可能な限り低減していくことが求められますが、そのために最も重要になるのが定期的に行うメンテナンスと、適切なタイミングで実施する改修工事です。

さらに、グローバルシップ工事部は、お客様のどんなご要望にもお応えしていく姿勢を貫いています。一見困難だと思われる工事でも、当社が組織する「工事安全協力会」に登録する100社を超える協力会社の力を借りながら、「何とかする」ための施工方法を徹底的に考えます。

最近の例では、マンションの一室に防音のピアノ演奏室を設置する工事

や、オフィスビル内に車椅子用のエレベーターを新設する工事などを手掛けました。いずれもコストを最小限に抑えながら、最も使いやすい構造になるようなご提案を行い、工事完了後はお客様からも高いご評価をいただくことができました。

また、工場の従業員専用の平置き駐車場に、太陽光発電装置を備えたカーポートを設営する工事は、当社としても初の試みとなりました。今後は、この太陽光発電カーポートをもっと多くのお客様にご提案していくとともに、省エネや脱炭素を実現する工事メニューもさらに充実させていきたいと考えています。

これまでの主な工事受託の実績

建築工事	外壁補修、屋上防水更新、鉄骨階段補修、鋼製建具補修(サッシ、ドア) フェンス・ブロック塀、その他建築物の増設・改修工事
内装工事	天井、床(OAフローア、タイルカーペット)、壁(ボード、クロス)、建具の改装 レイアウト変更、間仕切等の改修一式
設備工事	各種空調・換気設備、受水槽・高架水槽、ファン・ポンプ類、トイレ改修 各種配管の新設・増設、改修
電気工事	受変電、動力・電灯、照明、中央監視、通信設備の新設・増設・改修
消防工事	自動火災報知、スプリンクラー、屋内・屋外・泡・粉末・ハロゲン各種消火の改修
その他	各種リニューアル工事、中長期修繕計画策定、建築・設備のコンサルティング



当社では、現状の評価をまとめた“建物診断計画表”を作成し、それに基づいて、いま優先的に何をすべきかを検討し、お客様の視点に立ってご提案していきます。LCC(ライフサイクルコスト)も考慮した上で、電気、空調など設備機器のスペシャリストたちが、耐用年数の判断はもちろん、日々のメンテナンスをも視野に入れた、資産価値向上に資する対策についてアドバイスいたします。さらに当社の専門家集団は、改修や修繕に伴う法的検証まで緻密に行ってまいります。

グローバルシップ 工事部 工事推進課 課長 榎本尚志

CASE 1 外壁補修工事

外壁に全面足場を組んで施工します。打診調査を実施し、報告書を基にタイル、モルタルの「ひび割れ・浮き」のある不具合箇所「樹脂注入・張替え等」を行い補修します。同時に、打ち継ぎ目地・サッシュ周りの劣化したシーラーについても「撤去・打ち直し」を行います。



BEFORE



AFTER

CASE 2 レイアウト変更工事

テナント入退去に伴う「原状回復工事」や「入居工事」を行います。また、オフィスの「働き方改革」や「組織改編」に伴うレイアウト変更やインテリアデザイン更新も提案いたします。建築・電気・設備の工事だけでなく、テーブル・椅子等の什器類にも対応可能です。



BEFORE



AFTER



CASE 3 空調機更新工事

経年劣化や、高効率化・省エネ化に対応して空調機や熱源の更新を行います。1台の更新から全館更新まで、事務所内の冷暖房状態やビルの使用勝手、光熱費等、お客様の要望を伺いながら、最適な方式を提案いたします。



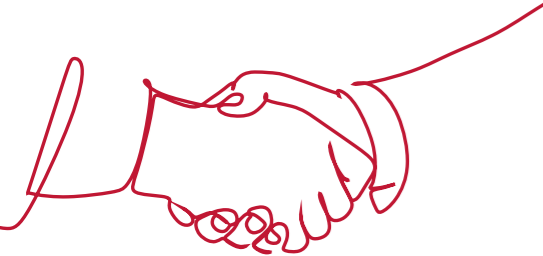
BEFORE



AFTER



お客様と ともに 歩む。Vol.11



学校法人 文化学園



日本のファッションシーンを彩る 著名なクリエイターを数多く輩出

文化学園は、1923年の創立以来、日本のファッション教育の中心的な存在としての役割を果たしてきました。そして現在、ファッションの幅広い分野で学生の多様な学びの意欲に応え、ファッション産業への人材育成はもとより、21世紀における服飾文化や生活造形の領域、それに関連する科学の分野において社会的使命を果たすべく、世界を視野にいたれたファッションの拠点づくりに取り組んでいます。そのために、国際レベルの教育研究環境を整えていくグローバル化、ファッション分野の技術革新の中核的な役割を担っていくイノベーション、新しい発想が得意な創造力ある人材の育成を目指すクリエイション、これら3つのキーワードと、地球環境保全のサステナビリティ、多様な人々の共生を目指すダイバーシティの2つの視点を重要なファクターと考へ学園の発展を目指しています。

4つの学校を中心として 国際的人材の育成に貢献

新宿駅南口から甲州街道を西へ歩くと、程なく見えてくるのが学校法人文化学園です。まず目に飛び込むのが1998年に竣工した21階建ての高層の校舎で、左側のA館は文化学園大学、右側のB館は文化服装学院の校舎となっています。その左側には2003年に竣工した新宿文化クイントビルが建ち、併せて地域の象徴的な存在となっています。母体となる「文化裁縫学院」が国内初の洋裁の学校として認可されたのは1923年(大正12年)で、昨年は100周年のイベントが行われました。「文化服装学院」と改称した後は、グローバルな視野でファッション業界を牽引していく人材の育成を使命とし、世界で活躍する著名なファッ

ションクリエイターを数多く輩出してきました。また、「文化学園大学」、「文化外国語専門学校」、「文化ファッション大学院大学」も開校し、国際的なビジネスシーンで独自のブランドを確立できる創造者の育成に邁進しています。さらに、服飾に関する教材開発のほか、産学連携の共同研究施設や、服飾の情報提供を担う図書館や服飾博物館、ファッションリソースセンターなども設置され、国内外の研究者や専門家に広く活用されています。

年代により管理手法が異なる 設備を個別にメンテナンス

文化学園の敷地内には築年数の異なる9つの建物が共存しています。古いものは既に竣工から60年が経過しているため、

メンテナンスではそれぞれの設備の特性を把握しながら個別に対応していくことが求められます。現在は、施設管理の中長期計画の一環として、全ての冷暖房設備のオーバーホールを数年かけて進めています。学園本部 施設部施設一課 課長の佐々木剛様は、広大な設備のファシリティ管理について次のように話します。「60年にわたり順次建設された建物ですので、何らかのトラブルは常にどこかで発生します。機器更新の必要性も毎年出てきますし、中長期のメンテナンス計画も不可欠です。例えば冷暖房設備ひとつをとっても、ボイラー、冷凍機、冷温水発生器、空冷式エアコンなど、これまで日本で販売された冷暖房装置のあらゆる機器が揃っています。現在はそれらの管理を一括してグローブシップにお願いしていますが、機種ごとに異なるメンテナンス方法を熟知し、着実にこなしてもらっています」また、糸くずなどが多く発生する文化学園では、自動清掃ロボットWhizを7台導入しました。これにより各フロアの床清掃を夜間と早朝にロボットが自立走行しながら無人で行うことが可能になり、省人化の実現とともに、学生が利用する昼間には騒音を発生させる作業を無くすことができました。

ファッションショーなどの イベント設備の運営も

文化学園の施設管理には、もうひとつ大きな仕事があります。それは、自らがデザインした作品を披露するために学生が主体となって行う「ファッションショー」など



左から 学校法人文化学園 施設部施設一課 副主査 井出慈乃様、同課 課長 佐々木剛様、グローブシップ 文化学園出張所 所長 清水和志様～竣工を記念して制作された大理石モザイク絵画の前で～

のイベント会場の設営と運営の業務です。利用者の希望に沿って、ステージ、電源のほか、照明や音響設備などを設営するとともに、照明をコントロールする調光卓の操作など当日のオペレーション作業も支援します。施設を利用するのは学生にとどまらず、新宿駅から徒歩8分という利便性の高い立地により外部の団体様にも貸し出すことも多いため、1年を通して様々なイベントが催されています。グローブシップでは、こうした数多くのイベントのサポート業務についても全面的にお手伝いしています。学園本部 施設部施設一課 副主査の井出慈乃様は、イベントサポート業務について次のように話します。「様々な会場で行われるイベントで、一定のクオリティを維持して照明や音響機器を設営・運用していく作業には、高度な知識

が必要です。特に、文化祭や卒業制作を発表するファッションショーには多くの関係者が訪れますので、最後までトラブルなくスムーズに実施されなければいけません。グローブシップのスタッフは、警備や清掃だけでなく、機材の専門知識を身に付けて、操作や調整方法にも慣れていらっしゃるの安心です。さらに教職員と顔見知りになっている方も多く、自立的に動いてもらえるのでとても助かっています」文化学園では現在、さらに利便性を高め、学生が快適に学園生活を過ごせるよう、将来に向けた設備機器更新の中長期計画を立案中です。そして、日本の教育施設におけるファシリティ管理の底上げを目指して、他大学との情報交流を積極的に図るためのネットワーク作りを進めていきたいと考えています。

グローブシップ 文化学園出張所 所長 清水和志

私たちは、施設部のご担当者だけでなく、先生や学生、来訪者など利用されるすべての方々がおお客様であるという意識のもと、皆さんが望まれる形でサービスを提供することに全力を傾けています。そのため、先生や学生の皆さんとも直接コミュニケーションを図っていくよう心掛けることも忘れません。また今後は、設備のリニューアルなどに関して様々なご提案をしていくことに加え、点検報告書や検針データなどの書類のデジタル化をさらに推進することで、コスト削減と情報管理の簡素化を図り、お客様と一緒に次のステージへとステップアップしていきたいと考えています。

設備・警備・清掃業務:管理職 2名、SE 22名、クリーンクルー 21名(技能実習生クリーンクルー5名含みメンバー出身)
管理対象:ABC館(1998年竣工)、D館(1964年竣工)、E館(1967年竣工)、F館(1979年竣工)、G館(1986年竣工)、I館(1968年竣工)、体育館(1987年竣工)、紫苑学生会館(2013年改修)、プラザ棟(2003年竣工)の合計9棟(2024年2月現在)
サービスエコマーク取得 2024年1月



文化学園 創立100周年記念
文化服装学院ファッションショーより

Building Profile

所在地
東京都渋谷区代々木3-22-1
管理規模:学園敷地内の9棟の建物
延床面積:97,685.13㎡
主要用途
文化学園大学・文化服装学院・文化外国語専門学校・文化ファッション大学院大学の4校および体育館や学生会館など

WELCOME! 地域会社へようこそ!

全国に広がるグローブシップグループのネットワークをご紹介します。



千葉グローブシップ株式会社

トータルなファシリティマネジメント企業として、 工事・修繕まで全てのお客様ニーズを自前で!

当社が千葉で最初に手掛けた仕事は東京電力千葉火力発電所の清掃業務で、昭和29年のことでした。35年には、川崎製鉄(現 JFEスチール)から当時の皇太子殿下(現在の上皇陛下)が工場見学をされる際のトイレ清掃を受注しました。そして昭和36年にグローブシップの前身である(株)ビル清掃 千葉営業所を開設(創業)。53年には独立企業として千葉ビル代行(株)を設立しました。

お陰さまで売上高は右肩上がりが増えて、平成7年には最大の売上を記録しました。その後、東日本大震災の影響を受け、業務拡大を図る必要があったことから、新たな一般企業の案件の獲得を目指すとともに、それまで修繕を中心としていた工事部門を拡大し、学校の耐震工事等の公共工事入札に積極的に参加するなど、ビルメンテナンスに続く第二の柱として取り組んできました。

千葉県では新たな施設の建設が東京に比べて少なく、必然的に価格競争も激化し

ましたが、当社はあくまでもグローブシップ品質の維持にこだわり、丁寧かつ確実な作業を維持したことでお客様の信頼を獲得。新たな物件成約に繋がったケースも多くありました。

また当社は、清掃オンリーの同業他社が多い千葉県の中でも、清掃・設備管理・警備といったビルメンテナンスのフルラインナップに加え、工事・修繕に至る業務をすべて自前でこなすことができる稀有な企業です。これまでも不具合発生時に当社が修繕までトータルに対応し、スピーディに問題解決を図ってきたことで、トータルなファシリティマネジメント企業としてお客様から高いご評価を頂けるようになりました。

現在の特徴ある業務としては、JFEスチール東日本製鉄所の76箇所に及ぶ建屋の清掃業務と電気設備点検・補修業務。幕張メッセの大規模展示場やイベントホールの日常の設備運転と保守業務。千葉都市モノレールの本社・車両・駅舎など

の清掃などがあります。モノレール駅舎の清掃では、数名の社員がモノレールに乗り込んで巡回移動しながら実施。さらに警備業務では、終電後の各駅舎の戸閉業務も行っています。

これからもグローブシップグループ最大の地域会社としてサービス品質の維持向上を図り、千葉県内のナンバーワン企業であり続けたいと考えています。



千葉グローブシップ株式会社 代表取締役社長 古賀慎一郎

お客様のご要望やクレームに真摯に耳を傾け、「GS品質」の維持にプライドを持って取り組んでいます。毎日丁寧な作業をしている姿や、指差し確認をしている姿が近隣の企業担当者様の目に留まり、受注に繋がる例もありました。今後も「GSWAY」を推進していくことで、将来の業績伸長に繋げていきたいと考えています。

会社情報 千葉グローブシップ株式会社

- 所在地: 千葉市中央区中央3丁目9番16号 大樹生命千葉中央ビル5階
- 設立: 1978年6月(2016年10月1日に千葉ビル代行株式会社から社名変更)
- 事業内容: 総合ビルメンテナンスサービス(清掃管理、設備管理、警備、環境衛生管理、植栽管理)の提供、建設業(工事・営繕)
- 主な管理ビル: JFEスチール東日本製鉄所(千葉地区)、東京電力パワーグリッド(千葉県内各支社)、幕張メッセ、国保旭中央病院、千葉敬愛学園、千葉県こども病院、千葉都市モノレール、ポートスクエア(千葉熱供給)、東千葉メディカルセンター、千葉興業銀行 など(敬称略)
- 従業員数: 851名(パート含む)

品質向上・安全衛生大会を開催

昨年11月16日、本会議室において「2023年度グローブシップ品質向上・安全衛生大会」が開催されました。当日は役員をはじめ、部長・支店長、営業本部の課長・部長代理、本社安全衛生委員、さらにはグループ会社の代表など、94名の関係者が参加しました。(うちリモートでの参加が63名)

冒頭に社長の矢口が開会の挨拶をし、「安全は全てに優先する事項であり、この集まりを社員の安全に対する意識をより向上させる機会にしたい」と述べました。その後、「労働災害の発生状況と根本原因分析」と題する発表では、原因の根本分析を行うことで災害防止に役立つ「なぜなぜ分析シート」の使い方が紹介されました。さらに、「労働災害の原因分析に関する事例紹介」、「Vベルト関連労災の根絶に向けて」など、安全に関する最新情報について各担当課長から詳しく説明がありました。

また、社内で公募した「労働安全衛生標語」および「GSOP標語」の中から優秀作を発表し、表彰式も行われました。

最後には取締役の東条が、「過去の事故を教訓として各現場で原因と対策を考えていただくとともに、ルール順守を徹底してほしい」と力強い言葉で大会を締め括りました。



エコマーク認定が43件に拡大

グローブシップでは、公益財団法人日本環境協会が認定するエコマークのうち「清掃サービスエコマーク」の取得を積極的に進めてきましたが、2024年1月現在で全国43の施設で認定を得るに至りました。

エコマークは、様々な商品(製品およびサービス)の中で「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルです。その中で「清掃サービスエコマーク」は、清掃業務を行う事業者の環境配慮に対する取り組みに与えられるもので、建築物所有者等に環境配慮型の清掃業務が選択されることを目指して策定されました。

当社は「地球にやさしく、お客様の安全・快適な環境づくりに寄与し、社員の幸せと社会の発展に貢献する」というサステナビリティ・ミッションを掲げています。そして、より環境負荷の低い資機材や技法を選定するなど、その目標実現に向けて着実に歩を進めていくことで、今後もお客様のSDGsの取り組みを全力でサポートしていきたいと考えています。

技能実習第5期生の入社式を実施



2024年2月22日に、技能実習生第5期生の入社式が本社9階大会議室にて行われました。今年はミャンマーから迎えた26名の皆さんが実習生として入社し、社長の矢口から直接手渡された社員証を嬉しそうに着用しました。矢口からは「仕事のスキルを高めるだけでなく、自国とは異なる日本の文化や生活様式にも大いに興味と関心を持っていただき、皆さんの人生をさらに豊かなものにしてほしい」との言葉が送られました。

同日、夕刻から行われた歓迎会には、役員をはじめ業務人事部、教育研修部といった関連部署の責任者、さらには技能実習生の先輩社員なども参加し、自由に歓談を交わしました。

実習生たちはGS研修センターでの基礎研修を受講し、仕事に必要な知識やノウハウを一から身に付けていきます。そして十分なスキルを得た後に各部署へと配属されますが、そこから先のサポートは全社員が一丸となって行っていく予定です。皆様も現場で顔を合わせることがありましたら、ぜひお気軽にお声掛けいただければと思います。

春風亭昇吉の 耳寄ばなし与太ばなし



今回は『長屋の花見』『粗忽長屋』など、古典落語でもおなじみの「長屋」を取り上げたいと思います。長屋には表通りに面した「表店（おもてだな）」と、表店の路地を入ったところに建てられた「裏店（うらだな。「裏長屋」とも言われる）」があり、落語に出てくる熊さんやはっつあんが住んでいたのは、裏店の棟割長屋だったかもしれません。表通りから続く路地の入口には「木戸」がありました。日の出（明け六つ＝現在の午前6時頃）と日没（暮れ六つ＝同午後6時頃）に開け閉めして、不審者が入ってこないようにしていました。

棟割長屋は、屋根の棟の下に壁を作って、背中合わせに部屋を設けたものです。平屋建てで、「九尺二間」が一般的でした。間口が九尺（約2.7m）で、奥行きは二間（約3.6m）。ですから、現代でいう六畳間と同じ広さでした。そのうち1畳半を土間としていたので、寝起きたのが4畳半ということになります。長屋には共同の井戸、便所、ゴミ捨て場がありました。そのほか土地の守り神である「お稲荷さん」、また路地の中央には、“ドブ板”が敷かれていました。共同の井戸は、地下水をくみ上げるものではなく、上水から供給されていた水道水を使った、水道井戸でした。おかみさんたちはここでいろんな話をしたので、「井戸端会議」という言葉が残っています。便所は、敷地内に共同のものがあつたのですが、お風呂は銭湯に通っていました。

土間は、玄関兼台所になっていて、飲用や煮炊き用として水を貯めていた「水瓶」、「流し」や「竈（かまど／へっつい）」もありました。部屋のなかは畳ではなく筵（むしろ）が敷いてあるだけ。収納には、葛籠（つづら）を使いました。「枕屏風（まくらびょうぶ）」と呼ばれるものは、布団の目隠しとして使われました。照明には行灯（あんどん）、暖房には火鉢を使いました。



長屋は基本的に借家で、管理人は「大家」、借りている人は「店子（たなこ）」と呼ばれました。大家はただ管理人というだけではなく、店子の世話役でもあり責任者でした。「大家といえば、親も同然、店子といえば、子も同然」と言われます。そんな大家さんですが、“役得”もありました。長屋の共同便所にたまった糞尿を売ったお金は、大家さんの収入になりました。この時代、糞尿は肥料として重宝され、江戸では近郊の農家が買い取りに来ていました。

「店中（たなじゅう）の 尻で大家は 餅をつき」なんて川柳も残っています。

大家さんという心強い存在がいて、向こう三軒両隣といわれたように、井戸、便所など、生活スペースの多くを共有することで、自然とお互いを助け合う空気が生まれました。人間同士の触れ合いがある長屋の暮らし、少し羨ましい気もします。



触れ合い、助け合った
長屋の暮らし



春風亭昇吉／落語家

1979年岡山県生まれ。史上初の東大出身落語家。在学中に全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝し、東大で初の総長大賞に輝く。2007年に春風亭昇太師匠に弟子入り。厳しい修行時代を経て、2021年に真打昇進。気象予報士やテレビ番組の司会等、広範に活動を展開しています。